

戦略で目指す将来ビジョン

今後、川崎市の生物多様性の保全を推進していくために、戦略で目指す2020（平成32）年における将来ビジョンとして、3つの基本方針を総合的に推進していくことを表現するために、多くの主体が将来の姿を共有できるようなイメージを交えた、戦略で目指す「将来ビジョン」を示します。（右図）

そして、総合的に推進していくことを表現するために、3つのビジョンを重ね合わせた、戦略で目指す長期的な将来ビジョンを示します。（下図）

2020（平成32）年における将来ビジョン

基本方針Ⅰ：人と生き物をつなげる

- ・環境に配慮したライフスタイルの普及
- ・生物多様性に配慮した地域活動の促進
- ・小学校等での環境教育・環境学習の推進

基本方針Ⅱ：生き物をつなげる

- ・農の3大拠点、生田緑地や多摩川崖線上の拠点を守る
- ・街路樹、河川等を活用した水と緑のネットワークでつなぐ
- ・まちなかの拠点を創る

基本方針Ⅲ：情報をつなげる

- ・生き物等の情報収集、発信の基盤づくり
- ・生物多様性に関する情報、知見の充実
- ・多様な主体間の情報の共有化とネットワークづくり

長期的な将来ビジョン



大都市である川崎市においては、人と生き物とのかかわりを深めることが大切です。

一方、生物多様性の観点では、“生き物をつなげる”ための有機的な水と緑のネットワーク（エコロジカルネットワーク）の構築に向けて、生き物の生息・生育の拠点を保全、拠点をつなぐ回廊（コリドー）の保全や整備、また、拠点数の少ない多摩川低地の市街地においては、大規模な公園緑地等の樹林地等が生き物の生息・生育環境となっていることから、将来的には、生き物の生息・生育の拠点となるような方向性で維持管理、整備を行っていくとともに、まちなかの公園や学校等の公共施設を中心に緑化や水辺整備等により拠点や回廊を補完する小拠点を創出していくことが必要です。

そして、多様な主体が協働して取組を推進していくために、必要な情報の蓄積と相互の利活用を図る必要があります。

注：地区公園以上の（概ね4ヘクタールを標準とする）規模をもった公園等を対象としています。